

## 国際観光学科

科目名: 海外インターン実習				担当教員 氏名: 藤本 幸男、米田 晶、齋藤 望、Victor Raquid Vibal	
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
8	1年次 後期	専門科目	実習	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		過去の海外インターン派遣経験や、オーストラリア現地企業の実態を踏まえたうえで、学生の成長に最も効果的な授業を行う。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
観光産業界の各分野における実践活動を通じて、顧客とは何か、仕事とは何かについて考え、また自らの強み、弱みに気づき、人間的な成長を期するために実施する。具体的には、観光先進国オーストラリアでの6ヶ月間にわたる実習を行う。実習先は旅行会社、ホテル、国立公園などで、様々な業界の実態、将来に向けた方向性についても学ぶ。また事前指導において設定した個人目標に対する自己評価、指導社員評価、帯同教員評価を日常的に実施する。実習終了時には、現地指導社員、指導教員による総括評価を受ける。実習の目標は、①人間として成長する、②海外で働くことを理解する、③英語力を高める、である。					
1 学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		1、2、3、4、5、6、7、8、9			
B 専門的技術	社会貢献・自己実現にインターン実習で得た技術が活用できる。				
D 問題解決力	インターン実習での問題を同定し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。				
H コミュニケーション力	言語や身体を用いて自己・他者に理解を深めコミュニケーションができる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%
				実技試験:	%
				その他:	50 %
特記事項: 評価は、個人の自己評価、及びインターン先企業の指導社員による評価とする。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション <b>実習、フィールドワーク</b>					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: テストはない。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 指導社員との、毎日の定期連絡、毎週のレポートにより課題の解決を図る。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①1週間程度の語学学校での英語力判定			語学学校資料による予習復習	授業全体で240時間	
②約2か月間のインターン実習A(外資系観光企業)			現地企業社員の指導の毎日のふりかえり		
③約2か月間のインターン実習A(外資系観光企業)					
④約2か月間のインターン実習A(外資系観光企業)					
⑤約2か月間のインターン実習A(外資系観光企業)					
⑥約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)					
⑦約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)					
⑧約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)					
⑨約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)					
⑩約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)					
⑪約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)					
⑫約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)					
⑬約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)					
⑭約4か月間のインターン実習B(日系観光企業)					
⑮シドニー(2泊3日)における研修旅行					
使用テキスト: なし			その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 半年間に及ぶ海外インターン実習は、日本の大学では初めての試みです。単なる語学研修と異なり、実際に現地企業で働くからには、楽しい経験だけではなく、時には心が折れそうになることもあるかもしれません。それらの様々な経験が諸君たちの人間力を何倍にも大きくしてくれることでしょう。また諸君は一期生でもあります。パイオニア精神でチャレンジしてください。					